

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第3章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

さて、フィラデルフィア。この町の名前の意味は『兄弟愛の町』

愛を表す言葉は、基本的に3種類あったことを覚えていますか。

“エロス”は性的な愛。“フィレオ”は兄弟愛。“アガペ”は神の愛。

また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。

『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、(黙示録 3:7)』

鍵は、死やハデスに人を閉じ込めるためのものではありません。地獄のようなライフスタイルから人々を解放するため、人をそこから自由にするためのものです。

救いを受け取らない限り、彼らを待っているのは地獄だけだから。

ヨハネは『ダビデのかぎ』というフレーズを、フィラデルフィアの伝道教会に向けて用いました。

これについて、イザヤ書 22 章に登場するシェブナという男を見ましょう。

彼はユダのヒゼキヤ王の執事でした。

当時、鍵は大きなリングにつけて肩に担ぐものでしたが、彼はその鍵を持っていました。ダビデ王国の鍵、つまりダビデ家の財宝、宝物蔵の鍵です。

その彼がとんでもない事をしでかしたのです。

彼は、自分のために立派な墓を造りました。

高い所に自分の墓を掘り (イザヤ 22:16)

もう一つ彼がやった事、それは、あらゆる種類の二輪戦車を得て乗り回した。

それを見たイザヤは、「何をしているのか!？」と言います。

「あなたを信頼して預けられた鍵は取り上げられる。自分の墓や戦車のために用いるという間違った使い方をしたからだ。」

それで、この“ダビデのかぎ”は彼の肩から取り去られ、別の人に与えられました。

ダビデの家のかぎを彼の肩に置く。(イザヤ 22:22)

その肩に“ダビデの家のかぎ”を持つ方がもう一人。

主権はその肩にあり (イザヤ 9:6)

これは、イエス・キリストのこと。

**彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、
その方がこう言われる。(黙示録 3:7)**

あなたや私の救いのために命を差し出した方、“ダビデのかぎ”を持っている方、イエス・キリストが、「王国の富・財宝を持っているのはわたしだ。わたしが扉を開ける。」と言われます。

何の扉でしょうか。

歴史的には、1800年から現代に至るまでがフィラデルフィアの教会世代で、扉が開かれ、福音伝道の機会が与えられるのを待ち構えている教会です。

主が扉を開かれるのです。それが閉じられると誰も開けることはできません。

では、ノアの時代を見てみましょう。

ノアたちが箱舟に入った後、

それから、主は、彼のうしろの戸を閉ざされた。(創世記 7:16)

ところで、ノアたちが箱舟に入ってから、天の水門が開かれて、雨が降り注がれるまでが七日間。預言を学ぶ人にとっては、これもまた注目すべき事の一つです。

とにかく、主が戸を閉ざされました。

水かさが増すにつれ、箱舟の外に取り残された人たちがドンドンと叩く音が響いたことで

しょう。間違いなくノアは戸を開けて、彼らの中に入れたかったはずですが。
でも、人が戸の中に入るという決断をするには時があり、時が来て戸が閉められると、もう開けることはできない。
だから、これは主がなされた事だと確信できます。

イエスは聖霊への冒涇について語られました。
「もし人が「No! No!」と言って拒否し続けるなら、やがて「Yes」と言うことができない時が来る。その人は、永遠の決断、永遠の裁きの中に閉ざされる。」

ここでは、フィラデルフィア教会の人々に言っています。
「わたしは、開かれると誰も閉じることができない扉を開いた。
と同時に、わたしは扉を閉じた。それは、一旦閉じられると、その日あなたがたが、考えを変えたとしても、決して開かれることはない。」
「あなたがたはチャンスを逃してしまうのだ。」
イエスが扉を開き、閉ざされる。

「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」(黙示録 3:8)

私たちが、このフィラデルフィアの教会に属するものとなるように祈りつつ、この教会について知るべきことを三つ挙げます。
1800年に始まって、私たちが生きているこの終わりの時代に至るまで、扉が開かれ、その中を通り、兄弟愛を尽くしてきた教会を見て、イエスは、「あなたには少しばかりの力があつた。」と言ったのです。

よく聞いて下さい。
「終わりの時、神の御子が現れて数々の奇跡が起こる。」つまり、「あなたは病院を訪問し、イエスの御名によって病を癒し、人々が回復する。そして栄光に満ちた世界を見る。」
いつの時代にも、このような教えがはびこり、これを信じるクリスチャンがたくさんいます。しかし私は、これは、基本的にインチキだと思います。

聖書の預言を読めば、黙示録に書かれている七つの教会の中で、終末時代から携挙まで残る教会は四つ。
その中の一つであるフィラデルフィア教会、この信仰深い集団にイエスは言います。
「あなたがたには少しばかりの力がある。しかし、多くはない。」

私たちは人が癒されるのを見ています。もっと癒しを見たい。
もっと頻繁に見ることができたらいいのに。
奇跡を見ます。でも、もっとたくさん起こったらいいのにと願います。
私にも、クリスチャンや教会やグループのその気持ちは分かります。
色んなことが起こるようにと強く願い、意気込むクリスチャンたち。
実際は、自分たちが宣伝しているような、主張しているような事は起きてはいないのに。「何か」は起こっている。しかし、「少しばかりの力。」
イエスは、彼らを責めるようにこう言ったではありません。フィラデルフィアの時代はそういうものだったという事です。
「あなたがたには扉が開かれ、あなたがたはそこへ進んで行った。
そして、あなたがたには大きな力ではなく、少しの力があつた。」

それで私は言うのです。
「主よ。少しばかりの力をありがとうございます。
主よ。私たちにもっと優しさが、愛が、力があればと思います。
しかし、これも終末時代の教会に対するあなたの預言であつて、信仰の不足を責めるものではないと分かっています。」

「あなたがたには少しばかりの力がある。」
誰かが言うような、突出した教会になることを期待してはいけません。
全ての病人が癒され、奇跡に次ぐ奇跡。そんなことは起こらないのです。
黙示録の預言の描写をしっかりと理解しましょう。

「あなたには少しばかりの力があつて、わたしのことばを守り、」(黙示録 3:8)

私たちも守っています。
この終末時代に於けるフィラデルフィア教会とは、御言葉に立ち返った教会のことです。
御言葉に情熱を燃やし、関心を持ち、常に学ぶ教会。

**「あなたには少しばかりの力があつて、わたしのことばを守り、
わたしの名を否まなかつたからである。」(黙示録 3:8)**

別の訳、言い方では「あなたがたはわたしの“神性”を否まなかつた。」
「あなたがたは、『わたしがそれだ。』とわたしが言うのを理解した。
わたしと父とは一つで、わたしがキリストだ。
“変わった牧師”ではなく、“人生を成功に導く手本”でもなく、“豊かになるための秘訣”
でもなく、“幸せに生きる見本”でもない。

わたしは『創造主』であり、わたしは『神』である。
わたしを見る者は御父を見るのだ。」

「見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。
見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。」(黙示録 3:9)

「サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて」
これは誰のことでしょう。思い出して下さい。
ヨハネはこの手紙を、フィラデルフィアにいるユダヤ人たちに宛てて書きました。
その舞台裏には、以前お話したように、クリスチャンを迫害するユダヤ人がいました。
イエスは前に言った事を、ここでも繰り返しています。
「彼らはユダヤ人ではない。ましてや、ユダヤ人を迫害する者は、クリスチャンではない。」

誰かが、例えばヒトラーのように、いくら口で自分はクリスチャンだと言っても、それだけではクリスチャンになれない。
同様に、誰かが、私の家系はユダヤ系だと言っても、クリスチャンを迫害している者は、本当のユダヤ人ではない。

では、フィラデルフィア世代である私たちはどうでしょうか。
私の個人的な意見ですが、はっきり言います。よく聞いて下さい。
今も、「私はユダヤ人だ。」と言うけど、実は違う人たちがいます。
クリスチャンの中で多くの人たちが、「私たちがイスラエルだ！」と言い始めている。
いや、どんどん増えています。
「何ですって！クリスチャンたちが？」
《神はユダヤ人を見捨てた。》《イスラエル国家に用はない。》
これは、『リプレースメント（置換）神学』或いは『ドミニオン（統治）神学』『今がキングダム（王国）神学』と呼ばれるものです。

「ユダヤ人はキリストを拒否した時に、すべての権利、約束、契約を手放した。
だから神はイスラエルを見捨て、ユダヤ人に特別な思いなど持っておられない。
今は、我々、教会がイスラエルなのだ！」

私たちが生きている今の時代には、この考え方が支持を得ているのです。
第2次世界大戦で起こった、ヒトラーによる 600 万人のユダヤ人大虐殺（ホロコースト）

は、ドイツ第三帝国で始まったのではなく、その 100 年前に聖書学者が、「神はユダヤ人を見捨てた。イスラエルに用はない。」と言い出した時から既に始まっていました。

そして今もなお、同じ神学が支持されています。

それによって、「キリストを殺し、メシアを拒否したユダヤ人は卑劣だ。

彼らにもチャンスがあったのに、彼ら自身がそれを逃がした。

だから、我々は、ユダヤ人のためにすることも、時間も、彼らを思う気持ちも持ち合わせない。」という間違った考えが、クリスチャンの中に引き起こされています。

反ユダヤ主義は、いつも、聖書を正しく解き明かさない人々によって、もたらされているのです。

10 節、更に続きます。

「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、」 (黙示録 3:10)

ここ！これに私は驚きました。

“忍耐のことば” とは何でしょう。

第 2 テサロニケ 3:5 を読みます。

「どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように。」 (第 2 テサロニケ 3:5)

神は、私たちが忍耐強くイエス・キリストを待ち望むようにと、忍耐力を備えて下さいました。主の御前で、主が来られるのを待ち望む。

どうしてここを強調するかと言うと、このフィラデルフィア教会もまた、主の再臨を忍耐強く待ち望み、聖書預言に関心を持つ教会だったからです。

皆さん、このことを知っておいて下さい。

人々は 1800 年代まで、聖書預言に対して無関心でした。

1 - 2 世紀には、携挙や再臨について頻繁に教えられていたのですが、数世紀が過ぎるにつれ、携挙があまり語られなくなりました。

それは、『寓話説』が出始めたからです。

エゼキエル書やイザヤ書の預言、そして黙示録を読んで、「こんなもの、文字通りに受け取ってはいけない。死んだユダヤ人国家が蘇るなんて起こるはずがない。

ユダヤ人が、再びユダヤ国民として認められるなんてあり得ない。」

それで人々は関心を失っていったのです。

勿論、いつの時代にも、わずかながら聖書預言に興味を持つ人はいます。

しかし、大半は寓話だ、作り話だ、実現するわけがないと言いました。

「北の国が、イスラエル国家を攻めに来る!?!」「あんな不毛の砂漠地帯に誰が関わる?」「どうして中東が最後の戦争の場になるのか?」「誰が中東を気に掛ける?」

このように、何世紀にも亘って、あの地域は岩だらけで見捨てられた何もない場所、誰も目もくれない所だったのです。だから、「聖書の文字通りには受け取れない。」

だけど今の私たちには、なぜあの地域がそれほどまでに重要なのか理解できますね。

全世界の経済は石油が全て。軍事、政治、経済など世界中が常に中東に注目しています。

「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、」(黙示録 3:10)

つまりこれは、主が来られるのを忍耐強く待っていること。

パウロが、預言として何度も何度も言及したように、主の再臨を忍耐して待ち望む。

「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。」

(黙示録 3:10)

ここで使われている“守ろう”という言葉は“EK”

これは、《その中で守ろう》というのではなく、《そこから外に出す》という意味です。

「わたしは、試練の時、患難の時にあなたがたを連れ出そう。」

この試練、患難はどこに臨むのか。「全世界に来ようとしている。」

「その時には、あなたがたを連れ出す。」

「わたしは、すぐに来る。」(黙示録 3:11)

“すぐに”というのは“突然に”という意味です。「わたしは、突然やって来る。」

だからこうして、毎回、日曜日に話していることはとても大切に、大患難前携挙説を信じる人だけが、「主はいつでも、突然に来られる。」と考えるのです。

携挙は、大患難の前に起こります！

黙示録 4 章・5 章で教会はどこにいますか？天国。

大患難はどこから始まりますか？6 章から 19 章。

黙示録をシンプルに、時系列に見ることができる人だけが、「携挙は今日にも起こり得る！」と言えるのです。

これが、正に聖書預言の醍醐味。

常に目を上げて見張り、いつも期待して生きる。

「あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。」(黙示録 3:11)

これ、よく聞いて下さい。すごいことですよ。

「わたしはすぐに、突然に来る。だから冠をしっかりと持っていなさい。」

「冠はまだ持っていません。天国でもらうのでしょうか？」

「あなたの冠をしっかりと持っていてください。」とはどういう意味ですか。

答えは御言葉の中にあります。第1テサロニケ2章。

私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。(第1テサロニケ2:19)

冠とはあなたが伝道した人々、主に導いた人たちのことです。

種を蒔いたり、或いは執り成しの祈りによって水やりをしたり、福音を分かち合ったりした人々、人、人、人。

パウロは、「主が再び来られる時、喜びの冠となるのは誰でしょう。あなたがたですよ！」

「私たちが伝え、仕えたあなた。あなたが私の冠だ！」と言い、イエスは「冠をしっかりと持っていてください。手離すな！」と言っています。

あなたが影響を与え、伝え、関わってきた人々が冠です。

これからやって来る困難な時に向けて、彼らをしっかりとつかまえておきなさい。

しっかりと！離すな！

だから、「フィラデルフィア」が大切な鍵なのです。

“兄弟愛”

扉は開かれました。

皆さんに開かれたその扉をしっかりと押さえておいて、主があなたがたにもたらして下さった人々、あなたがたの冠を失わないで。

彼らに寄り添い、諦めずに彼らのために祈り、共に歩むのです。

神が扉を開けて、あなたに与えて下さった人々、彼らがあなたの冠であり、喜びなのですから。

「勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。

彼はもはや決して外に出て行くことはない。」(黙示録3:12)

「もしあなたが、これからも冠をしっかりと持ち続け、わたしの名を否定せず、わたしのことばに真実に留まり続けるなら、わたしの再臨を忍耐して待ち望むなら、あなたがたを永遠の王国の柱としよう。」

「わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、

わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、(黙示録3:12)

あなたには、神の栄光だけでなく、主権と権威も与えられる。

新しいエルサレム。キリストと共に治め、そこに住むのです。

ワシントンDCやロンドン、ニューヨークとは違いますよ。

“New J” 新しいエルサレム (New Jerusalem)。

私たちは真の力が存在する場所の市民となり、皆さんと私には、新しいエルサレムの名前が与えられるのです。

「わたしの新しい名とを書きしるす。」(黙示録 3:12)

“新しい名前”とは何でしょう。名前はその性質を表します。

でも主は、それが何かは言っていません。

これは、私たちが永遠に入るまで知ることができない事なのです。

事を隠すのは神の誉れ。事を探るのは王の誉れ。(箴言 25:2)

神は事を隠される。そして言われる。「もし王になりたいなら、それを探し出せ。」

黙示録 1:6 には、私たちは王であり祭司だと書いてあります。

すなわち、私たちはこの名前を探し出す者、いつも、主の隅から隅までを探求する者となるのです。

なぜなら、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることとなります。(第 1 コリント 13:12)

そして発見すればするほど、「うわあ。主よ！びっくりです!!」

絶対に失望しない。絶対に幻滅しない。

地上のいかなる人間関係に於いても味わえないこの関係！

どんどん興奮が増し、ぐんぐん喜びが大きくなる！

「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」(ヨハネ 13:35)

皆さんが行っている最も強力な証し、それは互いに愛し合うこと。

これこそが世が切望するもの、しかし持つておらず、且つ与えることができないものだから。

この世の人たちには理解できず、提供することもできない真実の愛。

冠であるその人々をしっかりとつかまえて、互いに寄り添い、兄弟同士で支え合う。

あなたがそうするなら、イエスが扉を開き、そして言われます。

「互いに愛し合いなさい。これが、鍵だ！」

「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」(ヨハネ 13:35)

「父よ。」とイエスはゲッセマネの園で祈りました。

「あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。」

そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」
(ヨハネ 17:21)

このように伝道とは神秘に満ちた素晴らしいもので、それは『愛』に直結しています。
私たちが愛し合い、親切と憐みと赦しによって互いに接しているのを人々が見る。
これが鍵となるのです。

主は、私たち一人一人に扉を開いて下さいます。

問われているのは、主が開いて下さった時に進んで行くか、それとも、どんなに頑張っても、
誰も開くことのできない閉ざされた扉に頭を打ちつけるかということ。

主は、フィラデルフィア世代の、この教会の一人一人を用いて下さると私は信じています。

「主よ。あなたの御心のままに、あなたが望まれる所に私を遣わして下さい。

あなたが備えて下さっている人々と関わらせて下さい。

この終わりの時代に、私にして欲しいとっておられることを、私が喜んでできるように助
けて下さい。」とあなたが自ら願うなら、主は扉を開いて下さるのです。

閉ざされた扉に頭を打ちつけず、開かれた扉を探すなら、主はあなたを用いられます。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」(黙示録 3:13)

つづく

それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。

その日、『ここにわたしがいる。』と告げる者がわたしであることを知るようになる。

良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。

平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、

「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。(イザヤ 52:6 - 7)